

「令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【富里小学校】

令和4年4月19日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の小学校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「理科」「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理科	学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の二つの内容区分からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

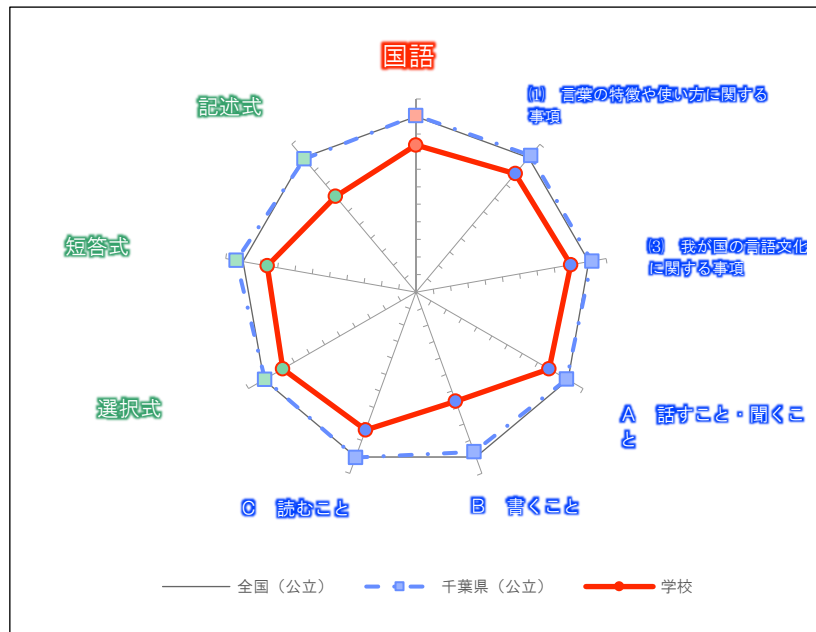
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



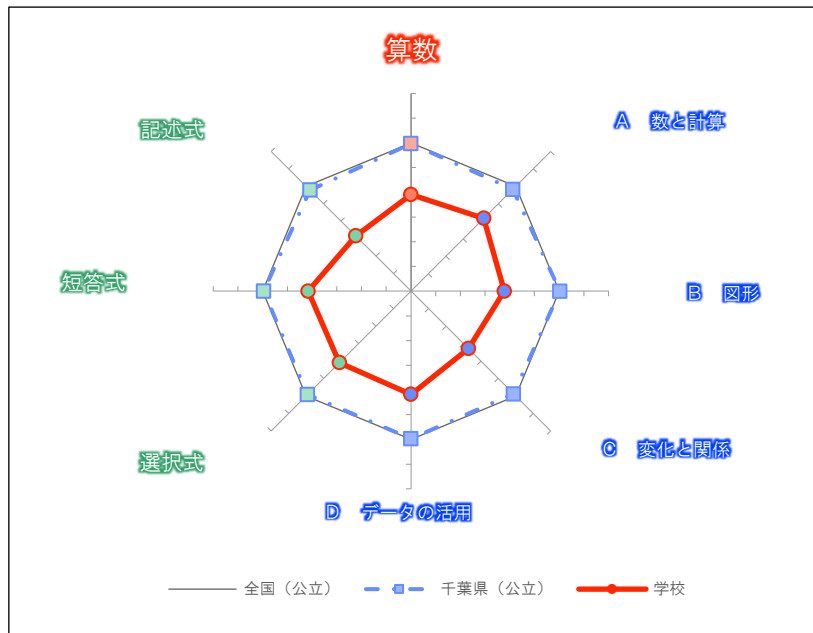
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、正答率が全国平均を下回りました。
- 「A 話すこと・聞くこと」の領域では、必要なことを記録したり、質問したりして、話の中心を捉えることは比較的よくできていますが、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題があると考えられます。
- 「C 読むこと」の領域では、物語全体を読み、複数の描写を基に、登場人物の相互関係についてとらえる力に課題があると考えられます。
- 「B 書くこと」の領域では、正答率が全国平均を下回っています。文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題があると考えられます。また、感想や意見の伝え合い、文章のよいところを見つけることにも課題が残ります。
- 「短答式」「記述式」形式の正答率は共に全国平均を大きく下回っています。無解答率も高くなっています。

【改善方策等】

- 漢字練習やドリル学習などを通して、漢字の読み書きが確実に定着するようにしてまいります。また、国語辞典を活用して語彙を増やしたり、文章の中で文脈に合った適切な言葉を選択したりする力が身に付くように指導してまいります。
- 「話すこと・聞くこと」については、国語科の学習だけでなく、他教科等においても適宜指導してまいります。具体的には、自分が伝えたいことが明確になるように構成を考えた話し方や、話し手の意図を理解するための聞き方を継続して指導してまいります。
- 「読むこと」については、毎朝、読書の時間を確保しています。様々な事柄に興味関心が向くようにしたり、目的意識をもたせたりしながら、引き続き読書活動を推進してまいります。また、考えをノートにまとめたり、交流したりする活動も取り入れてまいります。
- 「書くこと」については、(簡単な短文を)「何文字以内」と条件で要約する練習をしていきます。また、書いた文章を推敲するために、目的をもって書くことや、どのように書けばよいのか、推敲することのよさなど振り返りの時間を設けてまいります。各教科の授業においても、書くという場面を設定し、どのように書けば読み手に目的や意図が伝わるかという指導をしてまいります。継続した指導を引き続き大切にし、教師による添削も行ってまいります。

算 数



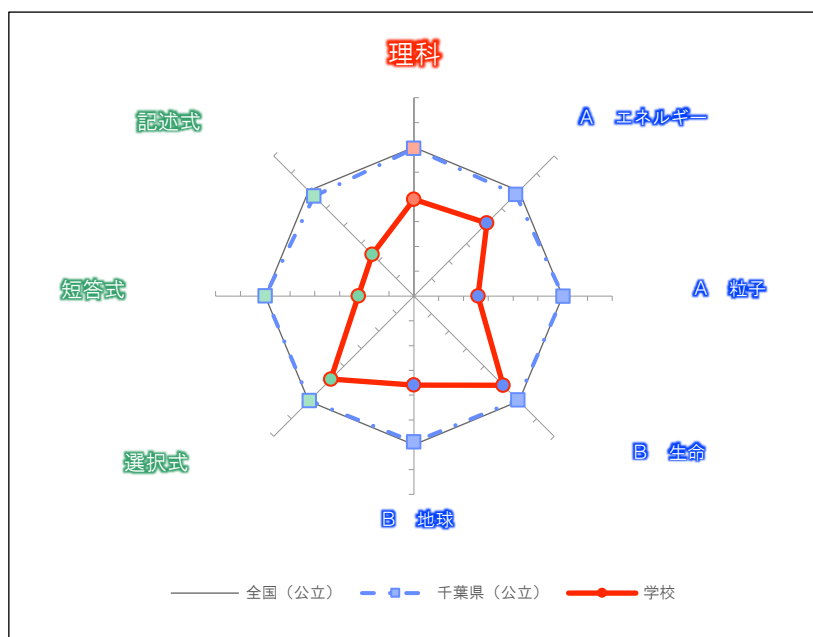
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 文章から「読み取る力」が不足している傾向が見られます。
- 「A 数と計算」「D データの活用」の領域については、正答率が56～57%と比較的できていることがわかります。しかし、「概数」に関して、目的に合った数の処理の仕方を考えることに課題があると考えられます。
- 「C 変化と関係」の領域が他の領域の問題と比較し、37.4%と正答率が低い傾向にあります。割合を用いての問題解決に課題があると考えられます。
- 図や表から気付いたことを言葉で説明する力が不足しています。
- 図形を構成する要素に着目し、意味や性質、構成の仕方についての理解が不足しています。正三角形の内角と外角の情報が錯綜し、正しく解答することができていません。
- 「記述式」の形式において、全国平均と比較して正答率が大きく下回っています。また、無解答率が高い傾向にあります。

【改善方策等】

- これからもドリル学習や「とみの国」検定の練習などを通して、基礎・基本的な問題が確実に理解できるように努めてまいります。
- 問題文から場面の状況を読み取る力が重要です。国語と同様に文章を読んで要点を正しく読み取る力を付けていきます。問題文からわかることを図や表、数直線などに表す活動を通して、問題解決の見通しがもてるように指導してまいります。
- 目的に応じて、数を大きくみたり、小さくみたりして、概算できる力を育ててまいります。
- 学んだことを振り返る活動を定着させ、理解を確かなものとしてまいります。
- 「割合」を苦手とする要因として定義の用語の意味への理解不足が考えられます。日常の具体的な場面に対応させ、確実に理解できるように引き続き支援してまいります。
- 図や表を活用しながら、言語活動の充実を図ってまいります。
- 様々な領域に課題がありますが、図形や速さ、割合など、児童の理解を深めるために、タブレットや掲示物等の視覚資料を有効に活用し、指導の工夫・改善を行ってまいります。
- 「記述式」の問題に課題が見られました。思考の過程を表現する方法が身に付くように指導していきます。特に、児童同士が考えを交流し、深め合う活動にも積極的に取り組んでまいります。

理 科



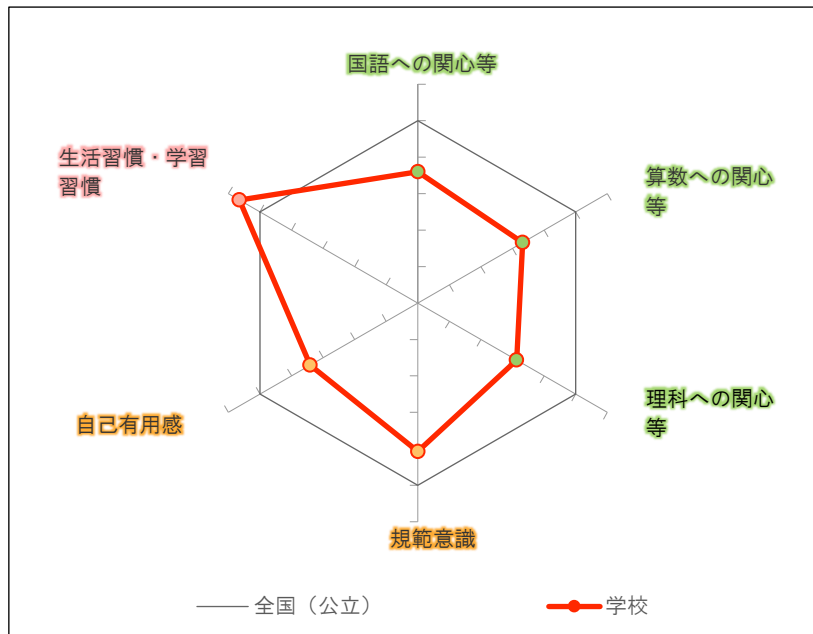
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「B 生命」の領域については、正答率が比較的高く問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの筋道を構想し、自分の考えをもつことができているのがわかります。しかし、結果や自他の考えを基に、問題に対するまとめを検討、改善、より妥当な考えをつくりだすことに課題があると考えられます。
- 「A 物質・エネルギー」の領域については全国平均と比較し、正答率が下回りました。特に、実験器具の理解、正しい扱い方に関する問題は「メスシリンダー」の名称について「ビーカー」「試験管」などの解答が見られました。目的に応じて器具を選択することの重要性について十分な実感が伴っていないことがわかります。主体的な問題解決を通して、知識を概念的に理解することに課題があると考えられます。
- 「B 生命・地球」の領域については、提示された資料から数量、変化の大きさなどを分析して、解釈し、自分の考えをもつことができていることが考えられます。
- 「記述式」「短答式」の設問に対しては他教科同様苦手意識が見られ、科学的な言葉や概念の理解に引き続き課題があると考えられます。

【改善方策等】

- 結果を基に結論を導き出す際の記録の整理の仕方の指導を引き続き行ってまいります。
- 結果を比較する際の他者の考えの受け入れ、多くの視点から自分の考えを見つめ直す学習活動の機会を多く取り入れてまいります。
- 目的に応じて器具や機器を選択し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けられるよう、操作の仕方を手順と併せて考えられるよう指導してまいります。
- 子どもたちが主体的に問題解決をする中で、捉えた内容を説明する学習活動の機会を引き続き取り入れてまいります。
- 実験結果から結論を導き出すために必要な情報の特徴を見つけ、自分の考えをもち、それらを話し合う場の設定に努めてまいります。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「国語」「算数」「理科」ともに勉強が「好き」と回答している児童の割合は、全国平均を下回っています。指導方法の改善に努め「わかる授業」を目指し、児童の学習意欲を高めていきます。
- 「将来の夢や目標を持っている」「友達と協力するのは楽しい」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っています。このことから、仲間と共に粘り強く目標に向かって生活を送っている児童が多いことが分かります。
- 「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合は、全国平均を下回っています。学校生活の中でも、一人ひとりのよさを認め合う場面を多く設定してまいります。
- 「毎日同じ時刻に寝ている」と回答した児童の割合は、全国平均を下回っています。また、「1日当たりどれくらいのテレビゲーム（コンピュータ・スマホを使ったゲームも含む）をするか」という質問では、「4時間以上」と回答している児童の割合は、全国平均より約20%多い結果でした。生活習慣の見直しも必要です。

3 まとめ

学校においては、引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めてまいります。また、自分の考えを文章に書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力が向上するように授業を充実させてまいります。特に、「書く力」を付けるためには、継続した指導が必要です。また、学校生活全般において、友達同士が互いを大切に思い、認め合う雰囲気をつくれるように努め、自己肯定感を高められるようにしていきます。

正答率の高い児童は、「テレビゲーム（コンピュータ・スマホを使ったゲームも含む）をする時間が短い」「やると決めたことはやり遂げる」「読書時間が長い」「学習で分かった点、分からなかった点の見直しをする」などで肯定的な回答が見られました。家庭での生活・学習習慣も学力に関連があると考えられます。ご家庭でも、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」「テレビゲームの時間」など、規則正しい生活習慣が身に付けられるよう、引き続きご支援をお願いいたします。